

令和6年度「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」結果について

学 校 教 育 課

児童生徒一人一人の学力の伸びや非認知能力の変容を確かめられる京都府独自の調査を実施

- 1 調査名称 京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～
- 2 調査目的 児童生徒の伸びや変容から、指導のポイント・課題を把握し、より効果的な指導を実現
- 3 調査対象 府内公立小・中・義務教育学校及び特別支援学校の小学校第4学年～中学校第3学年（京都市除く）

【令和6年度受検者数（人）】

	小学校 第4学年	小学校 第5学年	小学校 第6学年	中学校 第1学年	中学校 第2学年	中学校 第3学年
国語	8,944	8,960	8,950	8,770	8,761	8,684
算数・数学	8,936	8,966	8,946	8,773	8,761	8,683
英語					8,758	8,674
実施校数	197	197	197	100	100	100

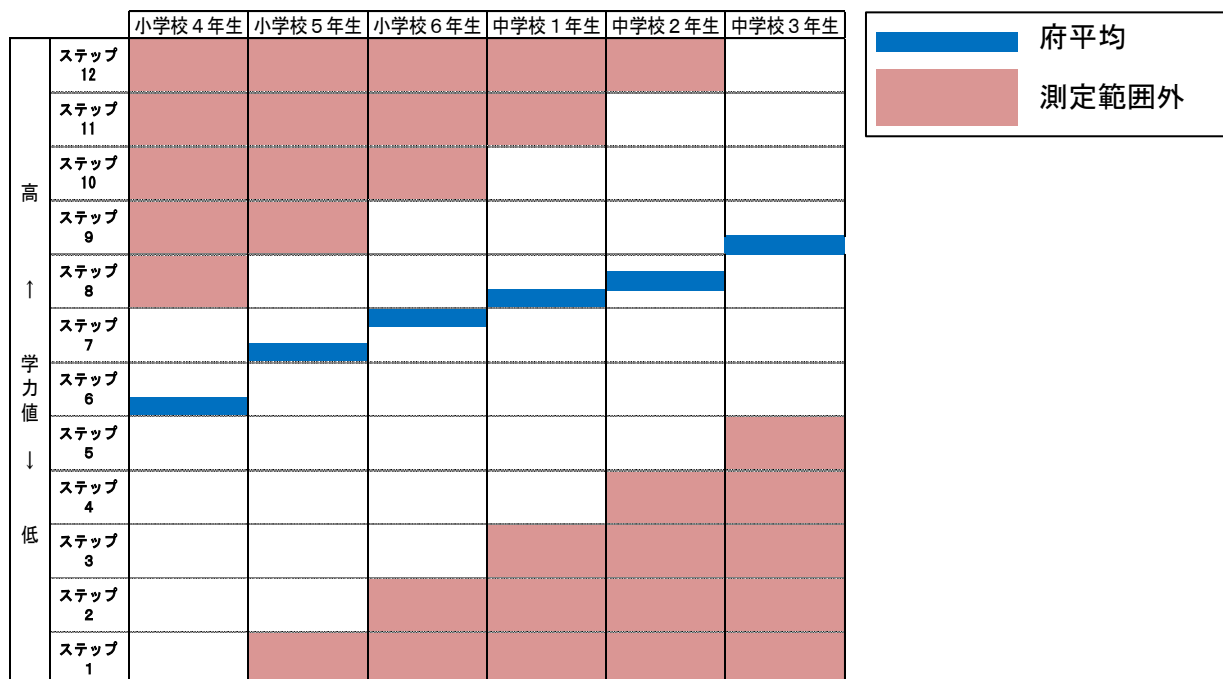
- 4 実施時期 令和6年5月23日（木）～ 5月29日（水） 中学校
5月30日（木）～ 6月5日（水） 小学校
- 5 調査内容 教科に関する調査 小学校第4学年～第6学年：国語、算数
中学校第1学年：国語、数学（算数）
中学校第2、第3学年：国語、数学、英語
質問調査 生活状況、非認知能力、学習への取り組み方等、ICT利活用に関連する調査
- 6 調査の特徴＜IRT×CBT方式＞ **全府実施は全国初**
 - (1) 教科に関する調査及び項目反応理論【IRT（Item Response Theory）】を用いた学力の推定
・異なる調査でも、調査結果を直接比較することができるIRTを用いることで、学力の伸びを確かめることが可能となる。
*上記のためには、「過去問題」の利用が必要であるため、出題問題は非公表
 - (2) 非認知能力や学習への取り組み方等を確かめられる質問調査
・京都府教育振興プランに示す3つの「はぐくみたい力」、学習への取り組み方等について、複数の質問項目を組み合わせることで測定
（*「主体的に学び考える力」、「多様な人とつながる力」、「新たな価値を生み出す力」）
 - (3) 調査方法 1人1台端末で出題及び解答【CBT（Computer Based Testing）】
- 7 返却する個人結果票：[個人結果票の見方 | 京都府教育委員会学校教育課 \(kyoto-be.ne.jp\)](https://kyoto-be.ne.jp)

1 結果の概要

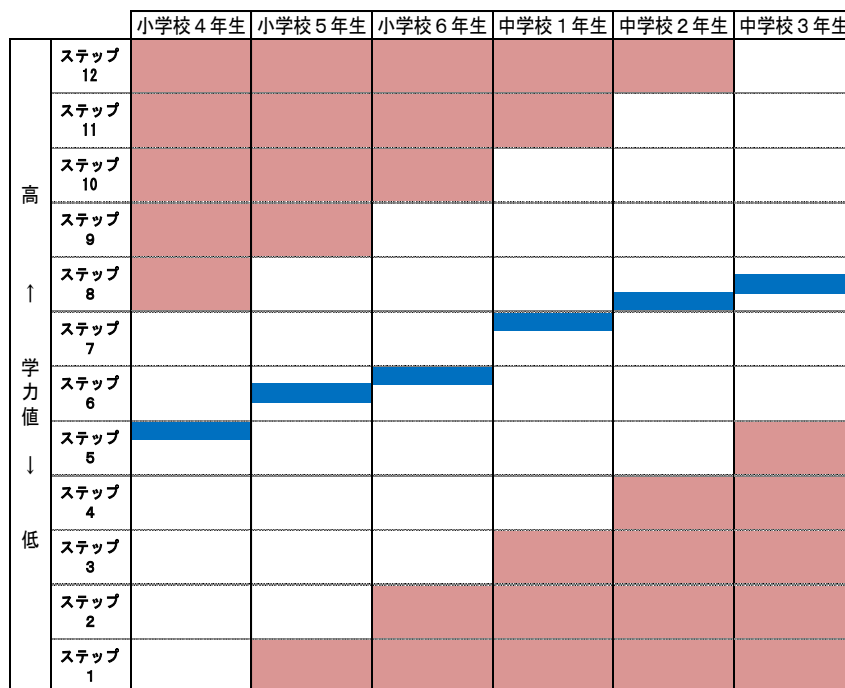
(1) 学力の状況

○令和6年度の各教科、各学年の府平均学力ステップ

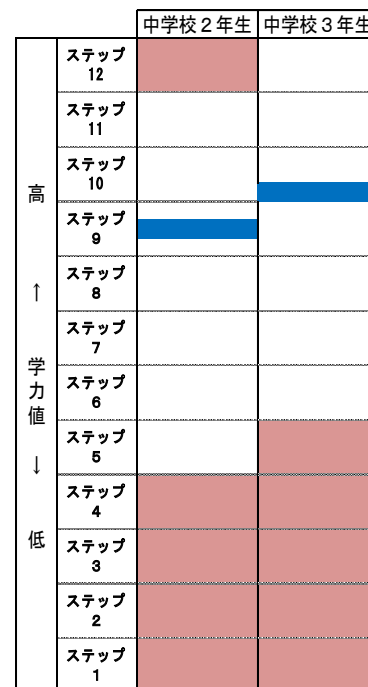
国語



算数・数学



英語



※各学年の学力のステップは下記の範囲内【36段階（12ステップ×3層*）】で設定

小学校 第4学年	小学校 第5学年	小学校 第6学年	中学校 第1学年	中学校 第2学年	中学校 第3学年
1-C～7-A	2-C～8-A	3-C～9-A	4-C～10-A	5-C～11-A	6-C～12-A

※各ステップの中で学力の高い順からA、B、C

(2) 学力の伸び

○昨年度の調査から学力が伸びた児童生徒の割合(%)

	小学校 第5学年	小学校 第6学年	中学校 第1学年	中学校 第2学年	中学校 第3学年
国語	75.0	68.5	71.9	58.1	63.1
算数・数学	63.9	60.0	67.5	46.3	47.0
英語					68.7

＊教科に関する調査及び項目反応理論【IRT (Item Response Theory)】を用いた学力の推定による「学力が伸びる」ためには、次の3つの条件をすべて満たすことが必要

- ①調査の前年度に学んだ内容の問題が解けること
- ②調査の前々年度までに学んだ内容の問題も解けること
- ③前年度の調査に比べて難易度の高い問題が解けること

○同一学年の学力ステップの推移

○国語

学 年	小4時	小5時	小6時	中1時	中2時	中3時
現中3					令5 8-A	令6 9-C
現中2				令5 8-C	令6 8-B	
現中1			令5 7-A	令6 8-C		
現小6		令5 7-C	令6 7-A			
現小5	令5 6-C	令6 7-C				
現小4	令6 6-C					

○算数・数学

学 年	小4時	小5時	小6時	中1時	中2時	中3時
現中3					令5 8-B	令6 8-B
現中2				令5 7-A	令6 8-C	
現中1			令5 7-C	令6 7-A		
現小6		令5 6-B	令6 6-A			
現小5	令5 6-C	令6 6-B				
現小4	令6 5-A					

○英語

学 年	中2時	中3時
現中3	令5 9-A	令6 10-C
現中2	令6 9-B	
現中1		
現小6		
現小5		
現小4		

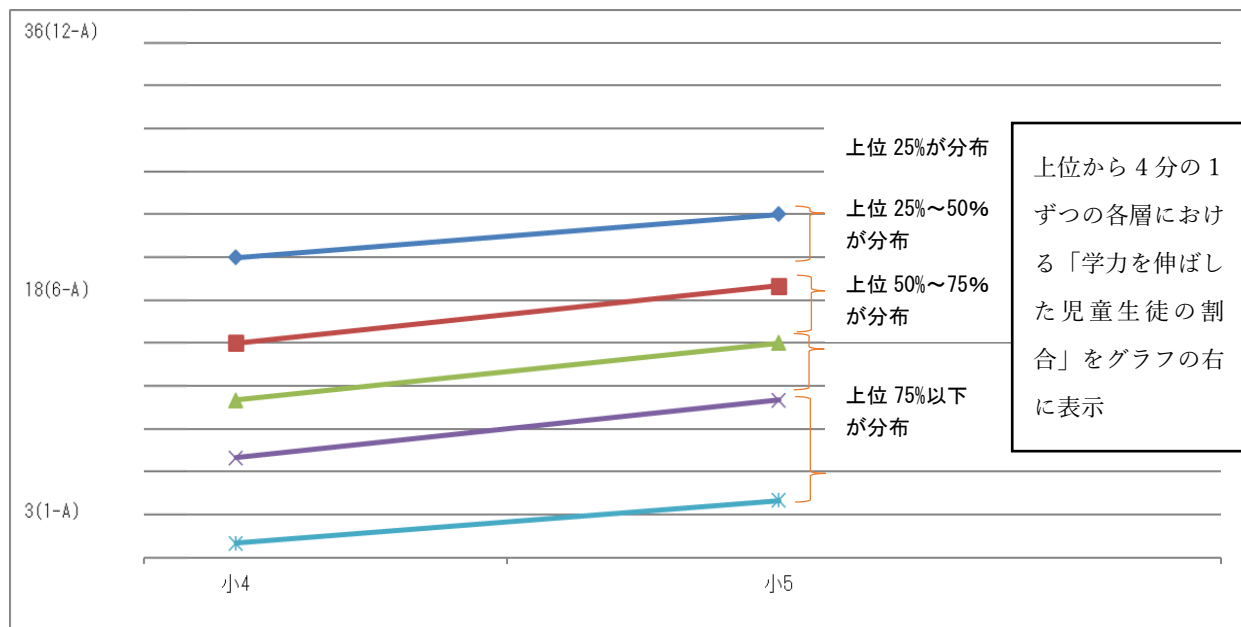
昨年度の調査から学力が伸びた児童生徒は、小学校第5学年から中学校第1学年では、国語及び算数・数学において60～75%程度であった。中学第2学年では、国語で58.1%、数学で46.3%伸びた。中学第3学年では、国語で63.1%、数学で47.0%、英語で68.7%伸びた。

また、同一学年の学力ステップの推移を見ると、現学年としては、中学校第3学年の数学を除き、全ての学年・教科で昨年度から学力ステップが上がった。

(3) 学力層別に見た学力の伸び

【グラフの見方】

以下のグラフは、同集団の過去の学力と今年度の学力を比較し、その変化をグラフで表したものの。グラフの縦軸は、学力ステップを表す。目盛りは、個人結果票の学力ステップ(12段階)を表している。目盛りと目盛りの間は、それぞれ3段階(A,B,C)の差がある。



- ◆ ⇒ 最大値 (最も学力が高い児童・生徒が属する学力ステップ)
- ⇒ 75パーセンタイル (学力の高い順に並べたときに、上から数えて25%にあたる児童・生徒が属する学力ステップ)
- ▲ ⇒ 中央値 (学力の高い順に並べたときに、上から数えて50%にあたる児童・生徒が属する学力ステップ)
- × ⇒ 25パーセンタイル (学力の高い順に並べたときに、上から数えて75%にあたる児童・生徒が属する学力ステップ)
- * ⇒ 最小値 (最も学力が低い児童・生徒が属する学力ステップ)

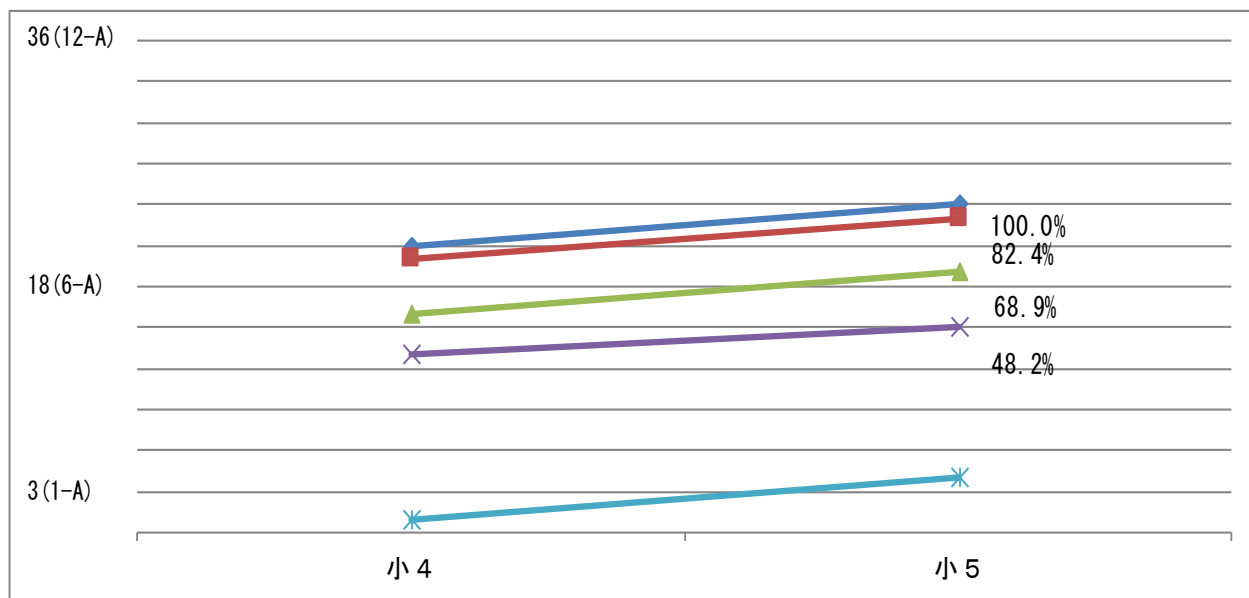
【グラフの見方】

どの分布も右肩上がり	傾きにばらつき①	傾きにばらつき②
上位層、中位層、下位層の、いずれの層の児童生徒も学力を伸ばしている。	上位層に伸びは見られないが、中位層、下位層の児童生徒の学力は伸びている。	上位層は伸びているが、中位層にほとんど変化はなく、下位層の学力は下がっている。

小学5年 国語

【令和2年度小学校入学。（現小学校5年生）】

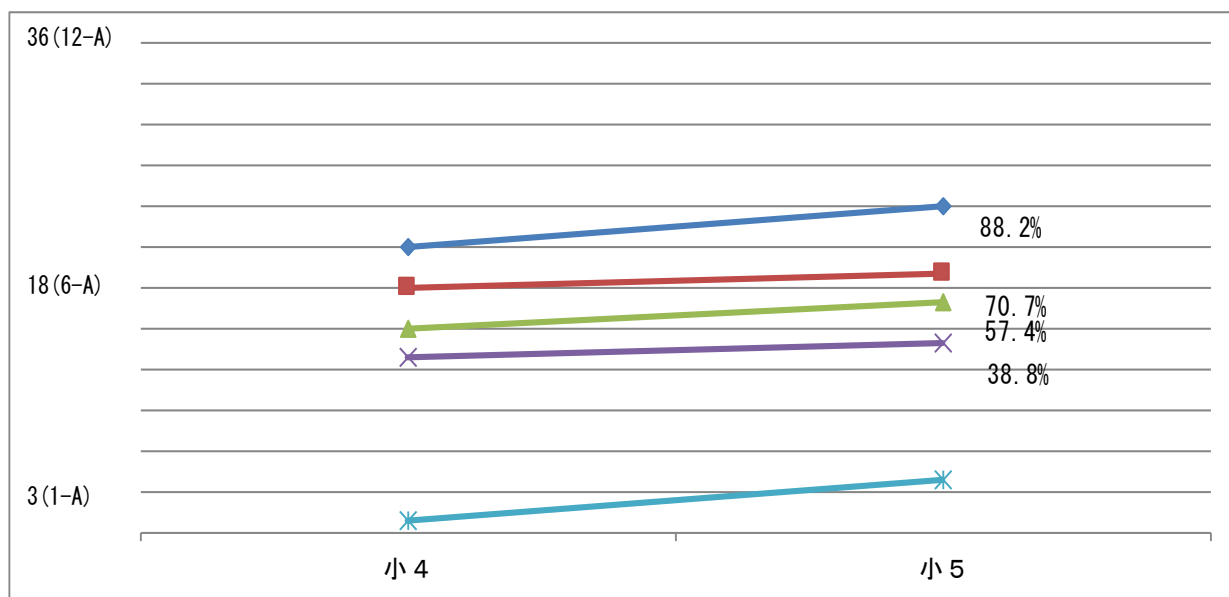
学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童生徒が属するステップ	21	24	－	－	－	－
上位から25%に位置する児童生徒が属するステップ	20	23	－	－	－	－
中央に位置する児童生徒が属するステップ	16	19	－	－	－	－
上位から75%に位置する児童生徒が属するステップ	13	15	－	－	－	－
最下位の児童生徒が属するステップ	1	4	－	－	－	－



小学5年 算数

【令和2年度小学校入学。（現小学校5年生）】

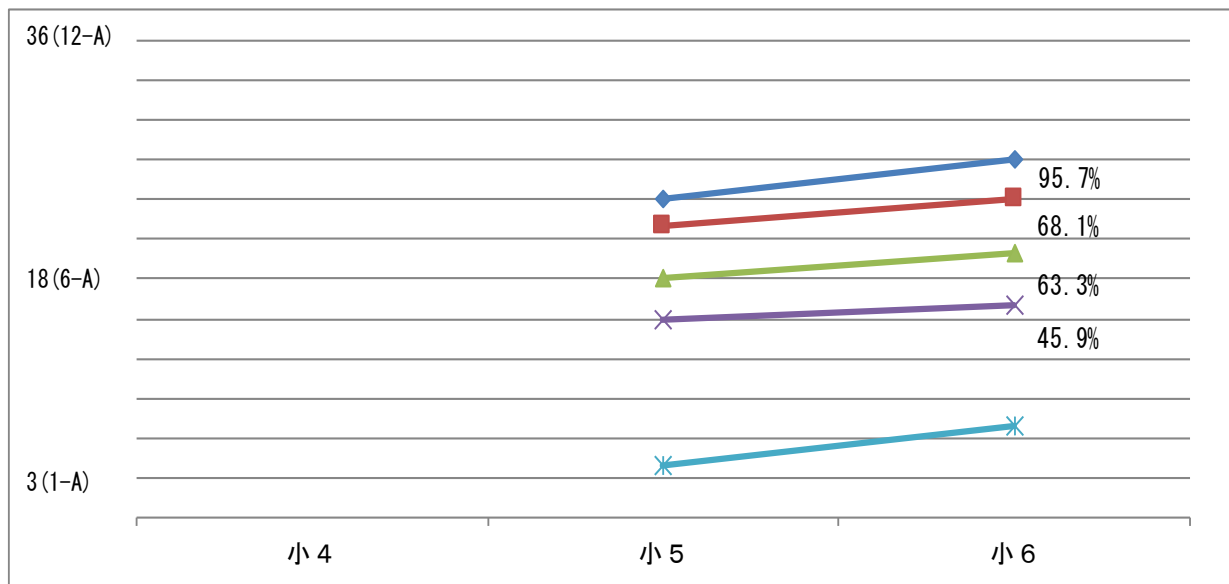
学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童生徒が属するステップ	21	24	－	－	－	－
上位から25%に位置する児童生徒が属するステップ	18	19	－	－	－	－
中央に位置する児童生徒が属するステップ	15	17	－	－	－	－
上位から75%に位置する児童生徒が属するステップ	13	14	－	－	－	－
最下位の児童生徒が属するステップ	1	4	－	－	－	－



小学6年 国語

【令和元年度小学校入学。（現小学校6年生）】

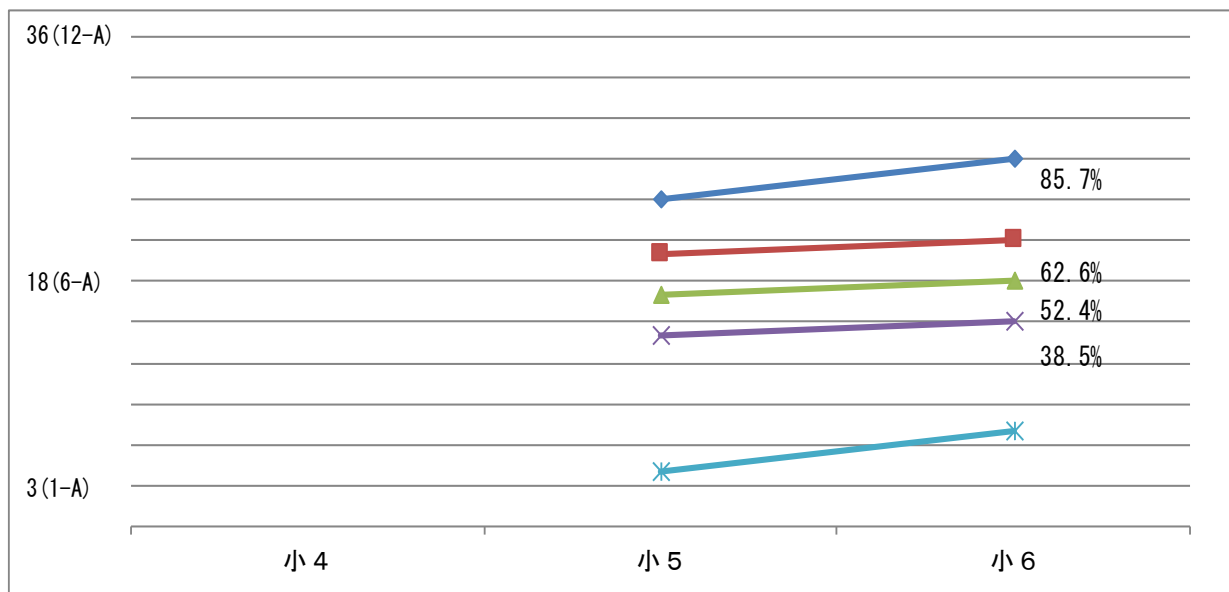
学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童生徒が属するステップ	-	24	27	-	-	-
上位から25%に位置する児童生徒が属するステップ	-	22	24	-	-	-
中央に位置する児童生徒が属するステップ	-	18	20	-	-	-
上位から75%に位置する児童生徒が属するステップ	-	15	16	-	-	-
最下位の児童生徒が属するステップ	-	4	7	-	-	-



小学6年 算数

【令和元年度小学校入学。（現小学校6年生）】

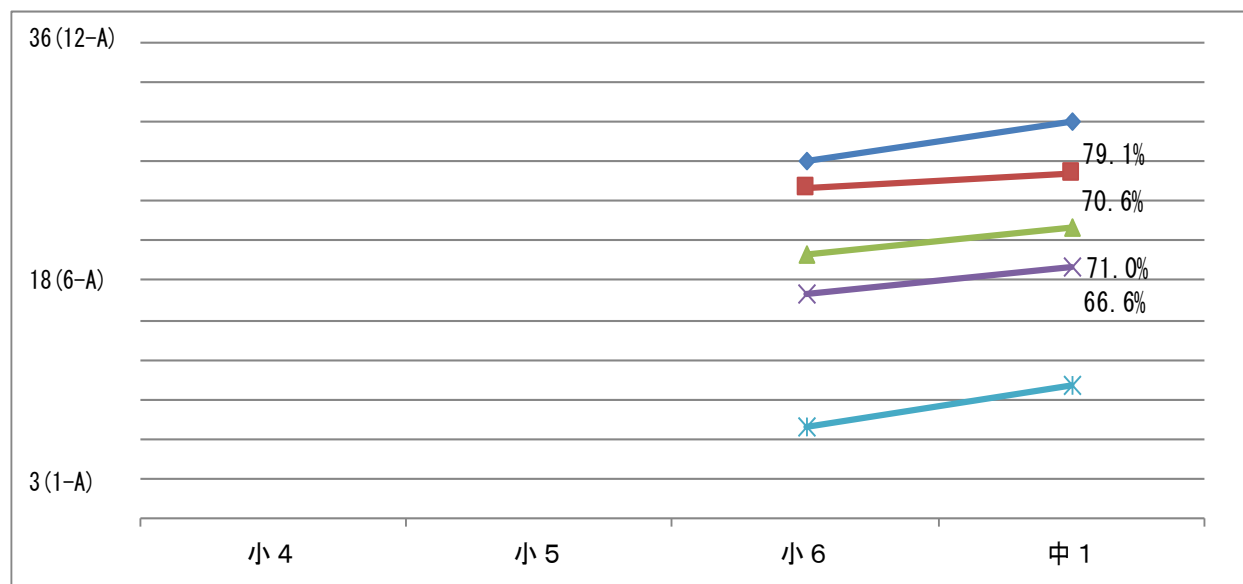
学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童生徒が属するステップ	-	24	27	-	-	-
上位から25%に位置する児童生徒が属するステップ	-	20	21	-	-	-
中央に位置する児童生徒が属するステップ	-	17	18	-	-	-
上位から75%に位置する児童生徒が属するステップ	-	14	15	-	-	-
最下位の児童生徒が属するステップ	-	4	7	-	-	-



中学1年 国語

【平成30年度小学校入学。（現中学校1年生）】

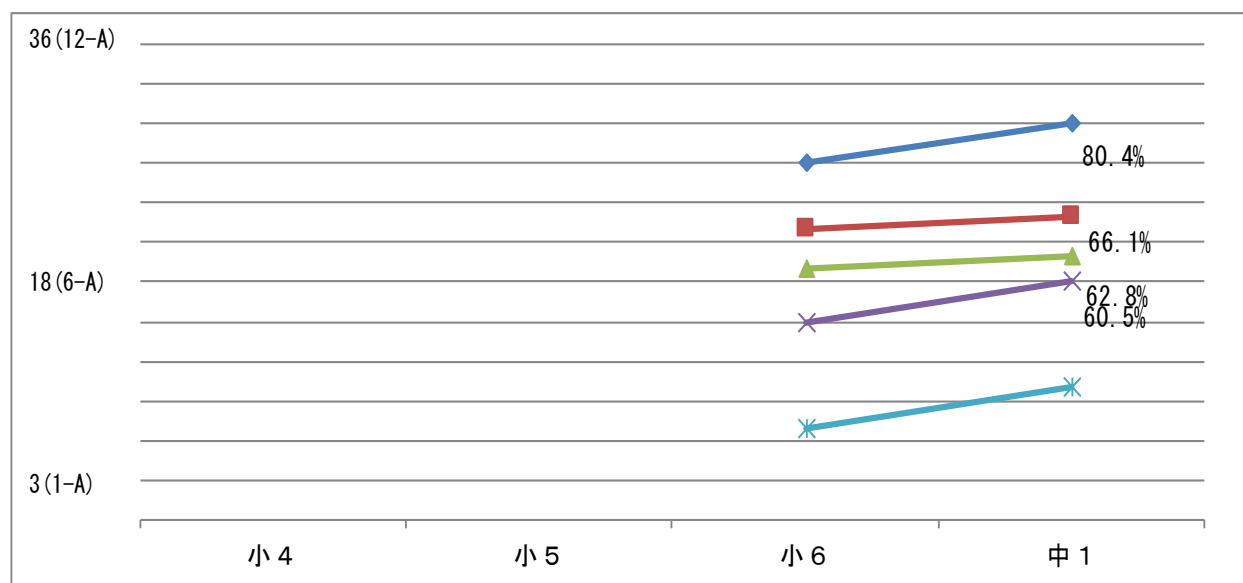
学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童生徒が属するステップ	-	-	27	30	-	-
上位から25%に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	25	26	-	-
中央に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	20	22	-	-
上位から75%に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	17	19	-	-
最下位の児童生徒が属するステップ	-	-	7	10	-	-



中学1年 算数・数学

【平成30年度小学校入学。（現中学校1年生）】

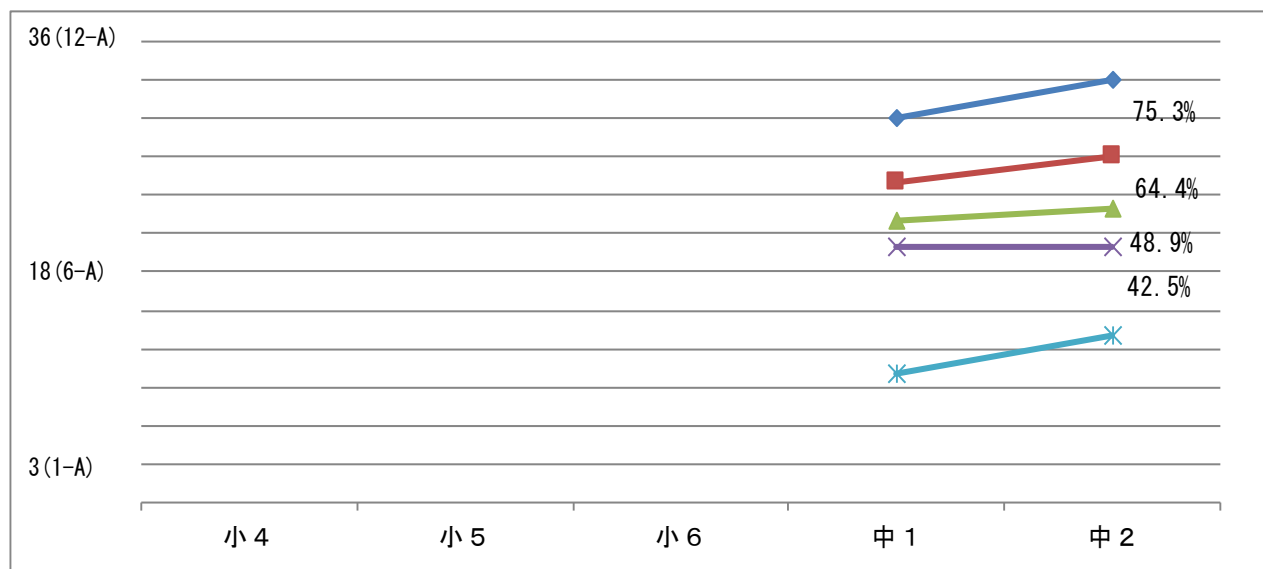
学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童生徒が属するステップ	-	-	27	30	-	-
上位から25%に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	22	23	-	-
中央に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	19	20	-	-
上位から75%に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	15	18	-	-
最下位の児童生徒が属するステップ	-	-	7	10	-	-



中学2年 国語

【平成29年度小学校入学。（現中学校2年生）】

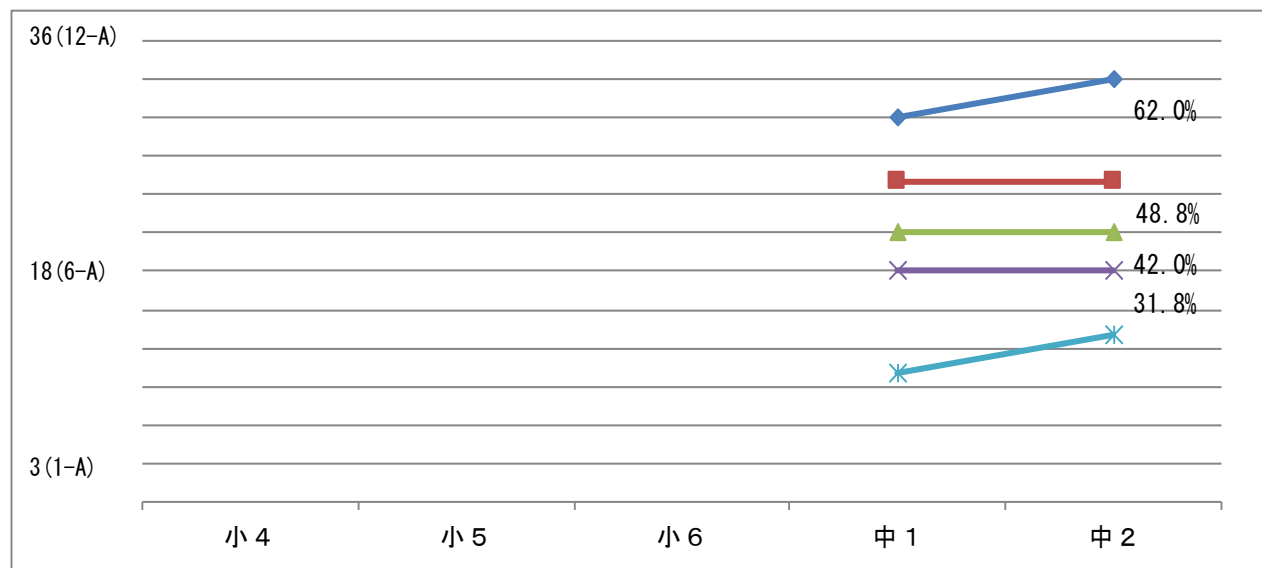
学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童生徒が属するステップ	-	-	-	30	33	-
上位から25%に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	-	25	27	-
中央に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	-	22	23	-
上位から75%に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	-	20	20	-
最下位の児童生徒が属するステップ	-	-	-	10	13	-



中学2年 数学

【平成29年度小学校入学。（現中学校2年生）】

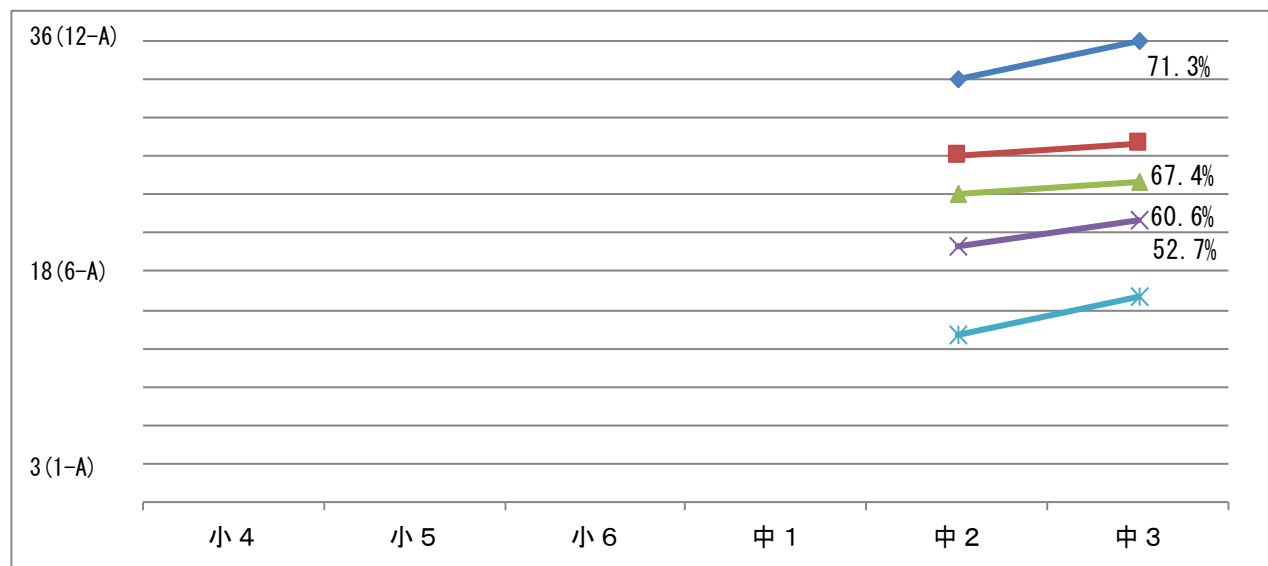
学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童生徒が属するステップ	-	-	-	30	33	-
上位から25%に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	-	25	25	-
中央に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	-	21	21	-
上位から75%に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	-	18	18	-
最下位の児童生徒が属するステップ	-	-	-	10	13	-



中学3年 国語

【平成28年度小学校入学。（現中学校3年生）】

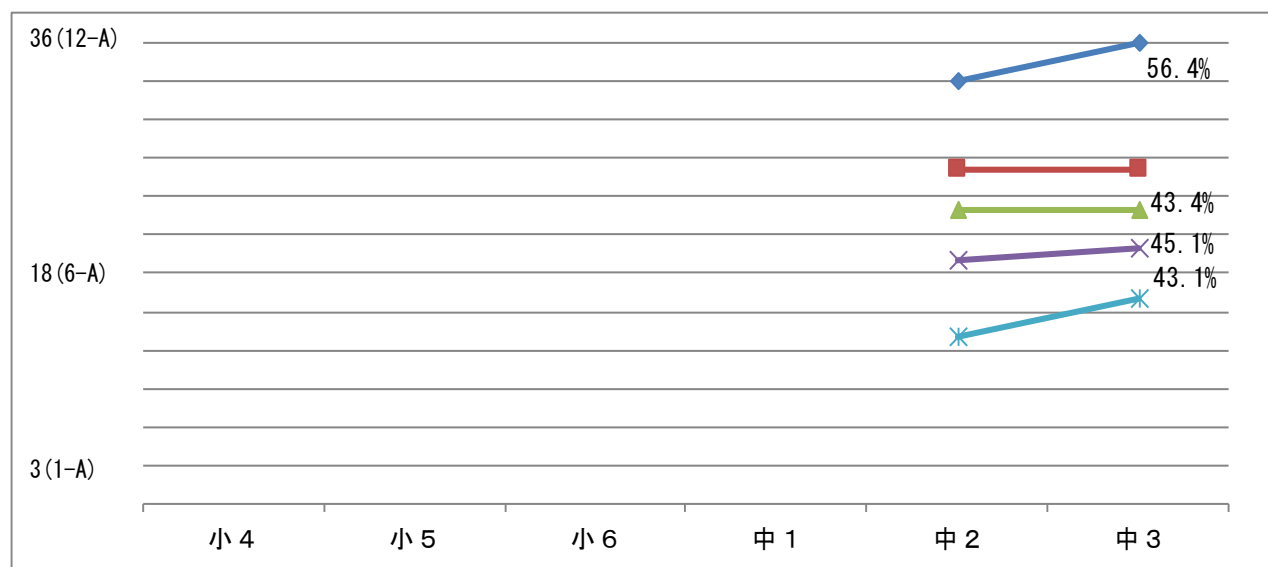
学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童生徒が属するステップ	-	-	-	-	33	36
上位から25%に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	-	-	27	28
中央に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	-	-	24	25
上位から75%に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	-	-	20	22
最下位の児童生徒が属するステップ	-	-	-	-	13	16



中学3年 数学

【平成28年度小学校入学。（現中学校3年生）】

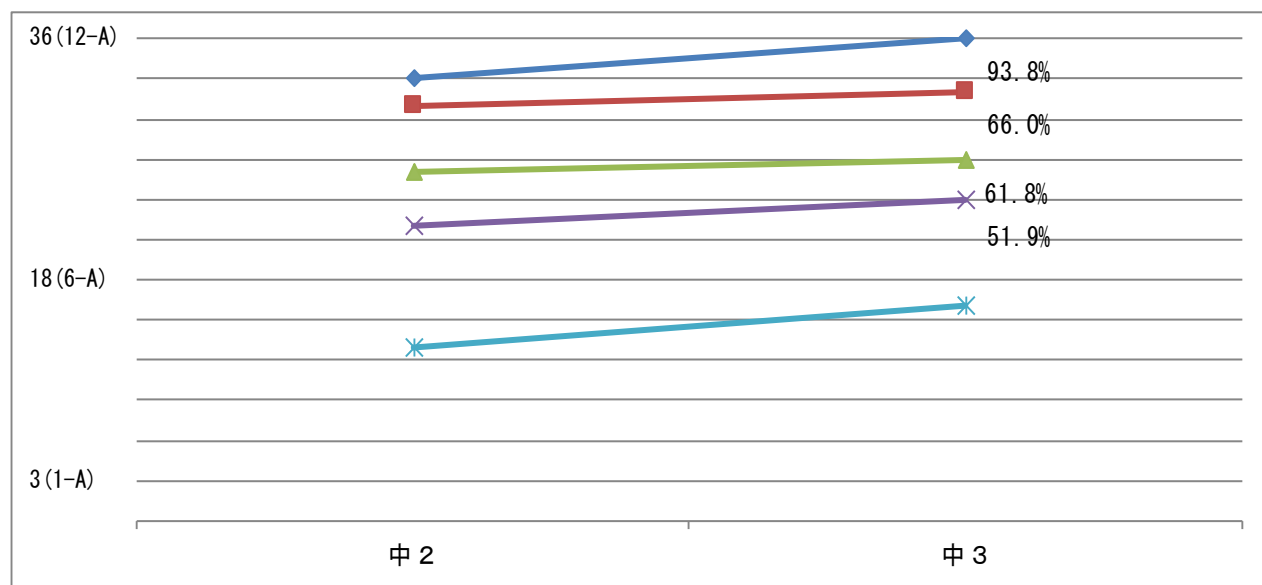
学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
最上位の児童生徒が属するステップ	-	-	-	-	33	36
上位から25%に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	-	-	26	26
中央に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	-	-	23	23
上位から75%に位置する児童生徒が属するステップ	-	-	-	-	19	20
最下位の児童生徒が属するステップ	-	-	-	-	13	16



中学3年 英語

【平成28年度小学校入学。（現中学校3年生）】

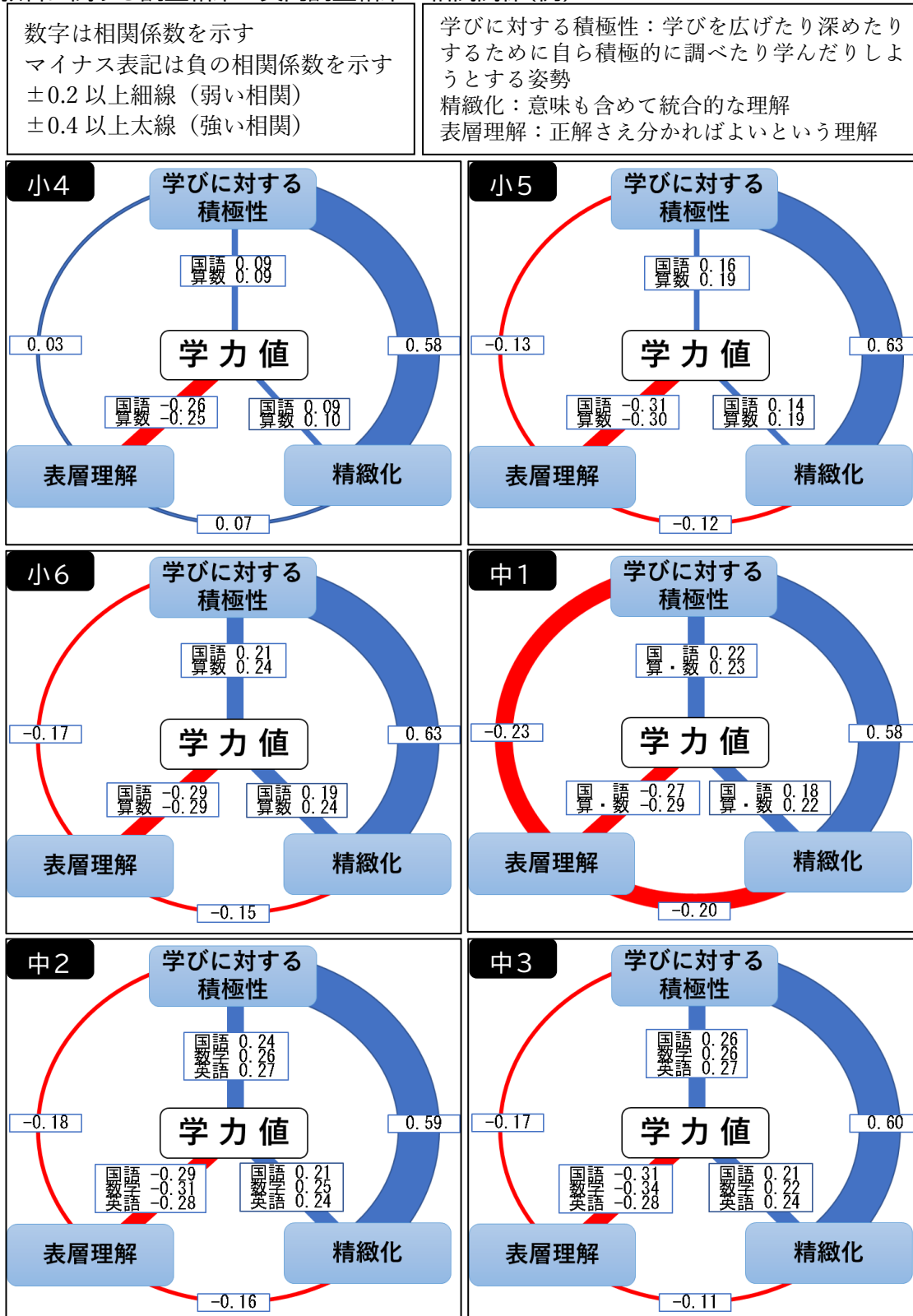
学年	中 2	中 3
最上位の生徒が属するステップ	33	36
上位から25%に位置する生徒が属するステップ	31	32
中央に位置する生徒が属するステップ	26	27
上位から75%に位置する生徒が属するステップ	22	24
最下位の生徒が属するステップ	13	16



小学校第5学年から中学校第1学年については、すべての学年・教科において、どの層も伸びている傾向が見られた。中学校第2学年及び第3学年の数学においては、中間層の伸びが表れにくかった。また、全学年・教科において、上位層の児童生徒の方が、学力を伸ばした児童生徒の割合が高く、下位層の児童生徒の方が、学力を伸ばした児童生徒の割合が低いことが分かった。

(4) 質問調査の状況

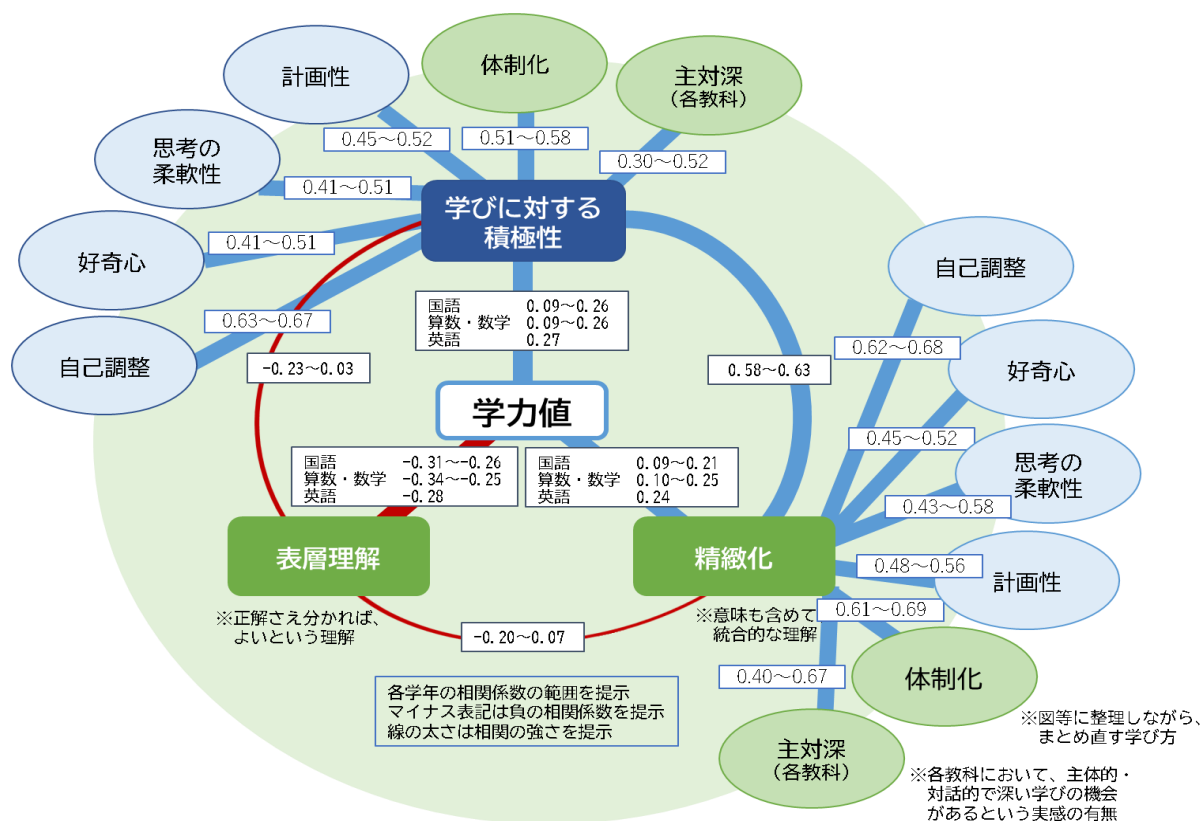
ア 教科に関する調査結果と質問調査結果の相関関係(例)



教科に関する調査結果と「学びに対する積極性」及び「精緻化」との間には正の相関関係があり、その大きさは、学年が上がるにつれてやや高くなる傾向がみられた。一方、教科に関する調査結果と「表層理解」との間には負の相関がみられ、小学校第5学年以上の学年で顕著に見られる傾向にあった。

学力ステップが高い児童生徒ほど、学びを広げたり深めたりするために自ら積極的に調べたり学んだりしようとする質問や、学んだことを関連付けたり、活用したりする学習経験に関する質問に対して、肯定的に回答していることが分かった。

イ 学力値及び非認知能力、学習方法の相互の相関関係



学びに対する積極性	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3
自己調整	0.63	0.65	0.67	0.63	0.66	0.67
好奇心	0.49	0.51	0.53	0.45	0.49	0.50
思考の柔軟性	0.51	0.50	0.49	0.41	0.42	0.44
計画性	0.51	0.52	0.49	0.46	0.45	0.46
体制化	0.56	0.56	0.58	0.51	0.51	0.51
主体的・対話的で深い学び（国語）	0.52	0.51	0.48	0.40	0.37	0.34
主体的・対話的で深い学び（算数・数学）	0.51	0.51	0.46	0.37	0.35	0.30
主体的・対話的で深い学び（英語）					0.35	0.33
精緻化	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3
自己調整	0.66	0.67	0.68	0.62	0.62	0.64
好奇心	0.51	0.51	0.52	0.45	0.46	0.47
思考の柔軟性	0.58	0.55	0.53	0.45	0.43	0.45
計画性	0.56	0.54	0.53	0.48	0.46	0.48
体制化	0.69	0.68	0.69	0.61	0.61	0.61
主体的・対話的で深い学び（国語）	0.67	0.64	0.59	0.49	0.45	0.41
主体的・対話的で深い学び（算数・数学）	0.65	0.63	0.57	0.46	0.44	0.40
主体的・対話的で深い学び（英語）					0.40	0.40
「主体的・対話的で深い学び」における教科間の相関係数	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3
主体的・対話的で深い学び（国語）（算数・数学）	0.77	0.76	0.74	0.62	0.58	0.54
主体的・対話的で深い学び（国語）（英語）					0.62	0.60
主体的・対話的で深い学び（英語）					0.59	0.58

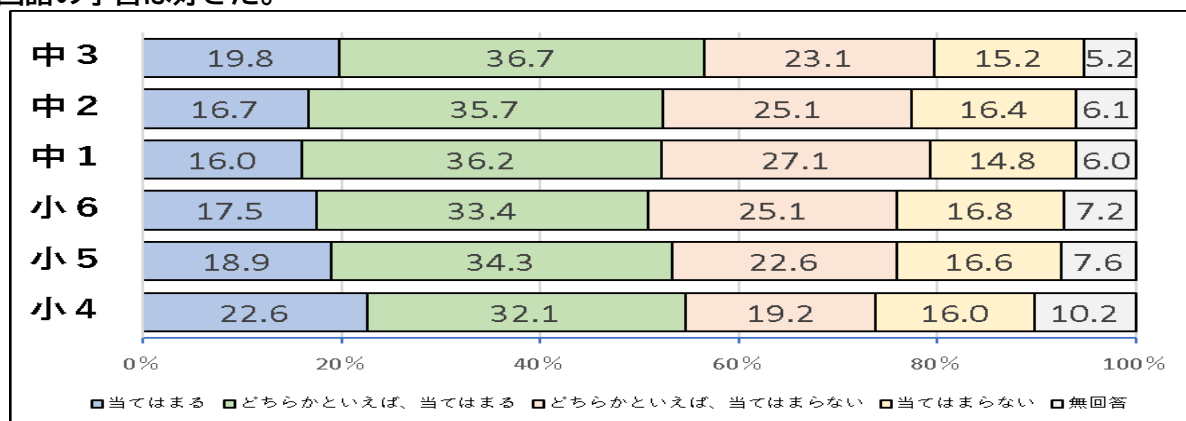
「学びに対する積極性」という質問項目の回答状況を分析すると、「自己調整」、「好奇心」、「思考の柔軟性」、「計画性」、「体制化」、「精緻化」、「主体的・対話的で深い学び」との間に相関が見られた。

「精緻化」という質問項目の回答状況を分析すると、「学びに対する積極性」と同じ項目との間に相関が見られた。

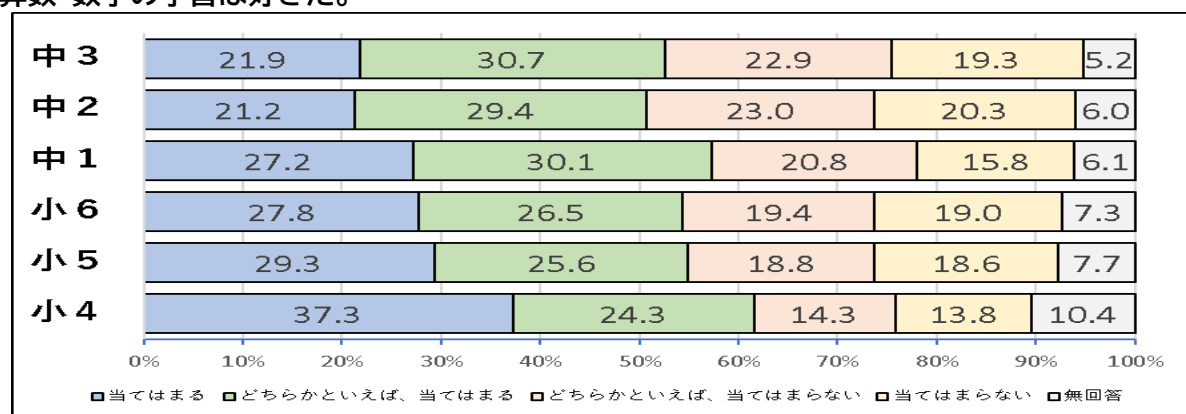
「主体的・対話的で深い学び」の項目の結果から、中学校は小学校と比較すると、教科間の「主体的・対話的で深い学び」の相関係数の差が大きい。中学校は小学校と異なり、教科担任制であることから、授業者による授業改善の差が影響を与えていると考えられる。

ウ 質問調査状況(教科の学習が好きだ)

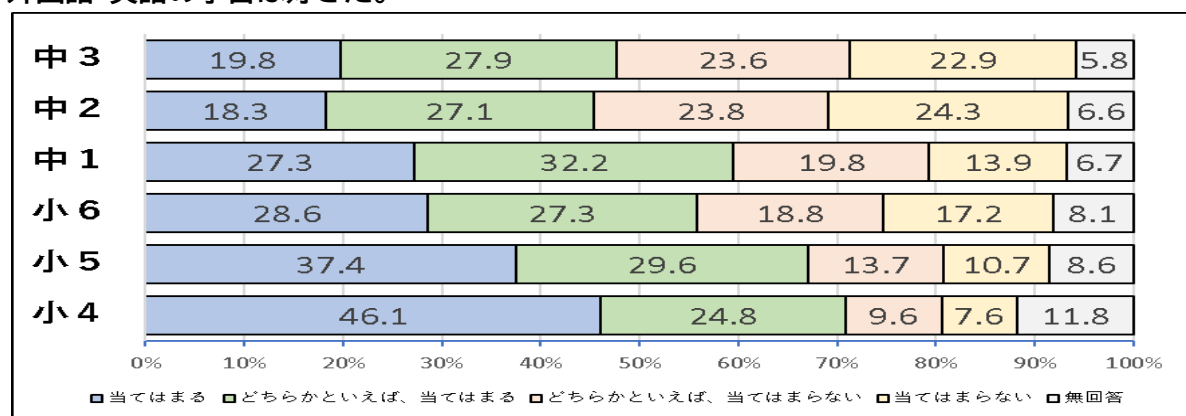
・国語の学習は好きだ。



・算数・数学の学習は好きだ。



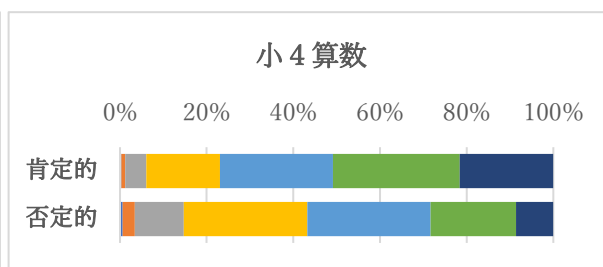
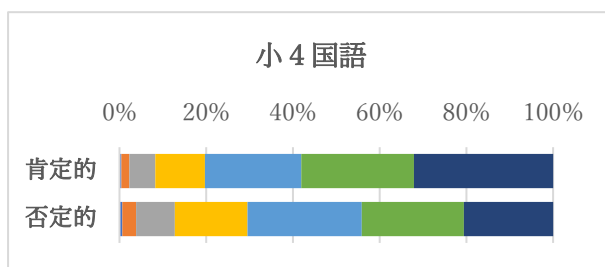
・外国語・英語の学習は好きだ。



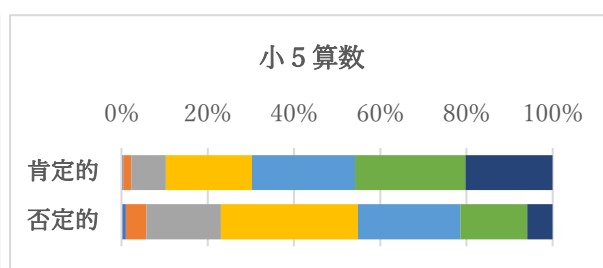
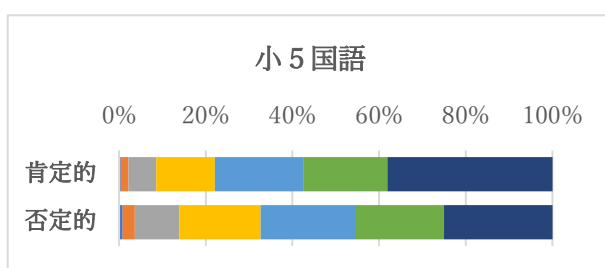
・肯定的回答、否定的回答それぞれにおける各学力ステップの割合

「肯定的」（「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」）

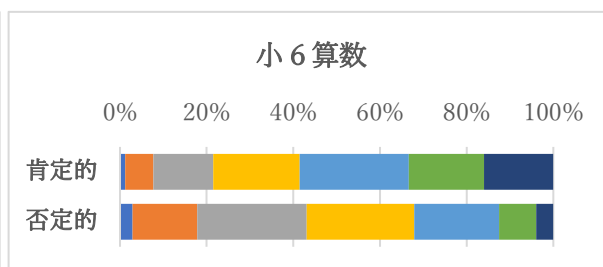
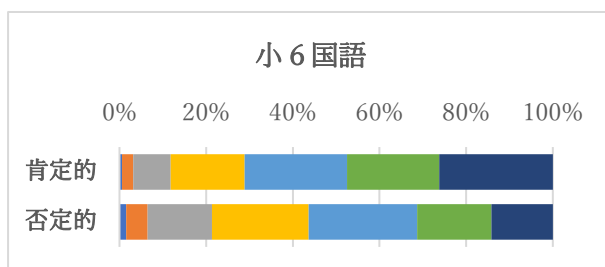
「否定的」（「どちらかといえば、当てはまらない」＋「当てはまらない」）



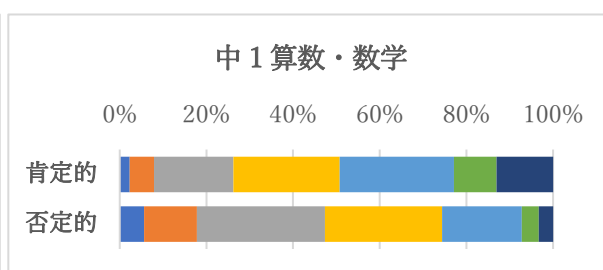
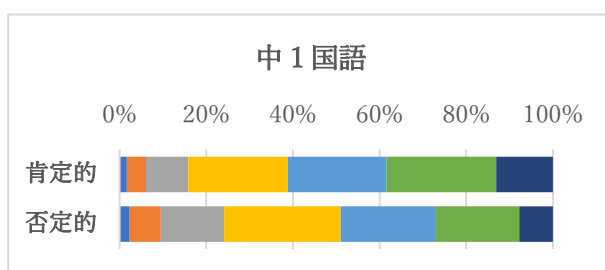
■ ステップ1 ■ ステップ2 ■ ステップ3 ■ ステップ4 ■ ステップ5 ■ ステップ6 ■ ステップ7



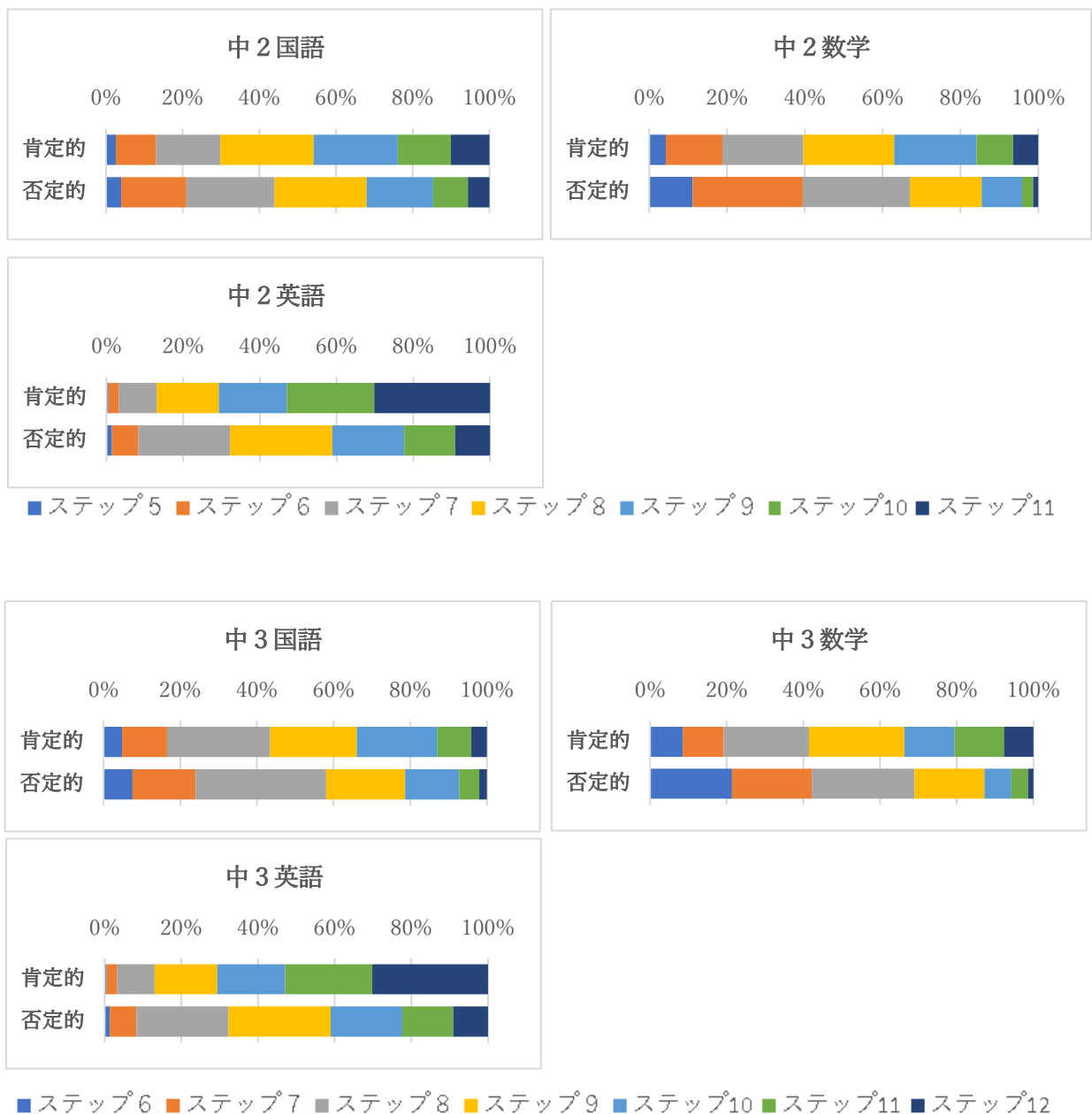
■ ステップ2 ■ ステップ3 ■ ステップ4 ■ ステップ5 ■ ステップ6 ■ ステップ7 ■ ステップ8



■ ステップ3 ■ ステップ4 ■ ステップ5 ■ ステップ6 ■ ステップ7 ■ ステップ8 ■ ステップ9



■ ステップ4 ■ ステップ5 ■ ステップ6 ■ ステップ7 ■ ステップ8 ■ ステップ9 ■ ステップ10



「教科の学習が好き」という質問項目の回答状況を学年毎に見ると、算数・数学及び英語において、学年が上がるにつれて肯定的な回答が減少した。とりわけ、英語においては、その傾向が顕著であった。

「教科の学習が好き」という質問に対して、「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」と回答する「肯定群」と「どちらかといえば、当てはまらない」と「当てはまらない」と回答する「否定群」とに分けて見ていくと、すべての教科において、ステップが高い児童生徒ほど肯定的に回答している割合が多かった。